

様式1 令和3年度 山梨県立都留興譲館高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	総合制高校の特色をいかし、多様で専門性の高いカリキュラムを用意して生徒の学習のニーズに応えるとともに、様々な個性を持った生徒が相互に切磋琢磨することを通して、確かな学力と将来に対する明確な目標を持った生徒を育成する。
-----------	--

山梨県立都留興譲館高等学校校長 小佐野景賀

本年度の重点目標	確かな学力を育成するわかる授業の実践
	生徒会活動を活性化し、集団の場で必要な基本的生活習慣の確立と心の教育
	望ましい勤労観・職業観の育成と地域に貢献できる人材の育成
	部活動の負担軽減と地域人材の活用

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価						
本年度の重点目標			年度末評価(3月1日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	確かな学力を育成するわかる授業の実践	①社会人として必要な技術検定、能力検定指導の充実	指導状況、合格状況	英語検定や工業系の技術検定には多くの生徒が積極的に取り組んでおり、目覚まし成果を出している生徒もいる。約85%の生徒が授業がわかりやすく工夫されていると回答している。相互授業参観等を通して、職員の95%が授業力向上に努めたと回答した。	A	引き続き技能検定、技術検定の積極的な取り組みを通して、生徒に必要な資質能力を育てていく。授業アンケートや基礎力診断テストを参考に、更にわかる・できる授業に向けて授業力向上を図っていく。
		②相互授業参観の活性化	相互授業参観の実施状況			
		③授業改善につながる生徒によるアンケート実施をもとにした授業の改善	授業アンケート			
2	生徒会活動を活性化し、集団の場で必要な基本的生活習慣の確立と心の教育	①部活動・生徒会活動・委員会活動等への参加の奨励と積極的・規律ある諸活動指導	生徒及び教員へのアンケート	生徒・保護者の回答より、部活動や生徒会活動は活発に行われ、満足度も高い。職員間の共通理解、組織的な指導、いじめに関しては、肯定率が7割強であり、生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境整備、指導体制の改善が必要である。	B	信頼関係を基にした生徒指導に向け、職員の情報共有を重視し、また自己有用感が持てる部活動や委員会活動の工夫が望まれる。道徳心の涵養を含めて、豊かな心の育成に重点を置いていく必要がある。
		②全職員の情報共有と共通理解のもと、組織的な生徒指導の実践	生徒及び教員へのアンケート			
		③いじめの撲滅と高校生活満足度の向上	生徒及び教員へのアンケート・いじめ調査			
3	望ましい勤労観・職業観の育成と地域に貢献できる人材の育成	①生徒一人ひとりのニーズに合わせた、キャリア教育の視点からの進路指導の実践	生徒及び教員へのアンケート	3年間を見据えたキャリア教育が実施されているが、更なる充実が課題である。工業科を中心に企業見学やインターンシップを実施し職業観・勤労観について考える機会となった。地域との連携は、コロナ禍の中制限された中での実施となった。	B	総合的な探究の時間を軸として、キャリアパスポートを有効活用し、生徒が自身のキャリアについて考え、成長が実感できるように指導体制・指導内容を充実していく。地域との連携はICTの活用により、充実させていく。
		②企業実習や企業見学等の充実	実施状況と対象生徒のアンケート			
		③地域の行事への積極的な参加	実施状況と対象生徒のアンケート			
4	部活動の負担軽減と地域人材の活用	①顧問の交替による指導体制の確立・計画通りの実施	教員へのアンケート	部活動指導に関して、8割強の職員が複数顧問の配置や指導方法の工夫で、職員の負担軽減を行うことができたという回答した。週末の模擬試験の監督や放課後学習支援に地域の大学生を活用することで、職員の業務の軽減につなげることができた。	B	部活動の指導において、全体的には運営状況は良好であるが、指導時間が長時間化する傾向にある職員がおり、ガイドラインを基に更なる改善が必要である。外部人材の活用を更に進め、教育活動の充実や業務の負担軽減を推進していく。
		②効率的な練習方法の確立に向けた研修	教員へのアンケート			
		③地元企業、大学、関係団体とのさらなる連携強化	教員へのアンケート			

学校関係者評価	
実施日 (令和4年3月7日)	
評価	意見・要望等
3	生徒達が主体性のある取り組みを行っていることが理解できる。昨年度と比較して、1つの項目を除いて全ての項目において肯定率が上昇しており、保護者・生徒からの信頼が年々高まっていることが理解できる。PC、タブレット、AV機器等が有効活用されていることが読み取れる。
3	「一致した方針」「同じ歩調」での指導、「いじめ」に関して、生徒・保護者とも、他の項目と比較して、若干低い評価となっており、今後の取り組みに期待したい。多様な考え方、多様な生き方が尊重されることが許される環境づくりが大切だと考える。新型コロナウイルスの流行による活動制限が続く中、心のケアも必要であると感じる。
4	コロナ禍の中、学校生活が保護者や地域に伝わりにくい状況ではあるが、85%と回答率は高く、更に発信力を付けて学校の魅力を伝えていくことを期待する。教育課程の編成において、学科間の交流を増やし、総合制高校としての特色を生かした教育活動の展開と主権者教育の取り組みが望まれる。
3	コロナが収束したら、都留市が中心となって連携している大学間の「大学コンソーシアム都留」をはじめとして、高等教育機関との更なる連携が推進されることを望む。都留文科大学との高大連携協定に基づき、「高校教育体験実践活動」事業が実施され、大学生による授業見学や放課後学習会における学習支援が実施された。引き続きの開催をお願いしたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。